

令和8年度第1回みやぎ観光振興会議仙台圏域宿泊事業者部会 委員等発言要旨

日時：令和8年6月2日（火）午後2時から

場所：フォレスト仙台 第1・2会議室

「1. 令和8年度宿泊税充当事業」についての質問や意見等

磯田委員

- 松島町では日帰り客が増加する一方で、宿泊客は減少傾向にある（仙台市内のホテル増加等の影響）。インバウンドも交通の便が良いため日帰りが多いのが現状である。
- 宿泊税では難しいかもしれないが、他県で行っているような宿泊割引キャンペーンの実施について検討してほしい。
- 土日祝日はある程度稼働するため、平日対策および閑散期（特に1・2月）の集中対策に重点を置いてほしい。

梅原委員

- 物価高騰等による宿泊費値上げの影響でビジネス客の宿泊離れが起きている。観光客は1、2月は厳しいが、3月以降増加している。
- インバウンドはかなり増えている印象で、仙台市内中心部の平均で4月は19%となった。
- 宮城県と仙台市が協力し合い、双方が連携して宿泊税を活用することで、県全体での観光客増加に繋げてほしい。
- 県が実施した観光人材育成セミナーは非常に良い内容だったので、周知を徹底して多くの人に参加してもらうべきである。

大崎委員

- 観光地ではない立地（黒川郡大衡村）であり、ビジネス客が主体だが、中東情勢や資材不足による工事の遅れなどで2月以降予約が一旦キャンセルとなり、苦勞している。
- 熊出没のニュースは観光に悪影響を与えるため、宿泊税でやることではないかもしれないが、県全体としての対策が必要であると思う。
- 観光施策の推進にあたっては、各市町村の地元視点も取り入れ、一緒にやっていける方向性を見出すべき。

小松委員

- 松島では外国人観光客が確実に増えており、平日やオフシーズンに宿泊してもらえるため、繁閑の差を埋める上で良いことである。
- 外国人受け入れのためには外国人スタッフの雇用が重要だが、ビザ取得などの手続きや費用が負担となっているため、雇用に対する事務的補助や優遇措置を検討してほしい。

- 松島の海岸通りを大型トラックが多数通行しており、初めて来県される方の評価が松島だけでなく、県全体で低下する。観光地としての景観や安全性を損なっているため、対策についてお願いしたい。

央戸委員

- レジャーホテル業界でも宿泊税徴収の混乱はなく、利用者の多くが地元の方ですので、宿泊税の施策を継続し、県民に浸透させてほしい。
- インバウンドの長期滞在を見据え、宮城県単独ではなく東北6県で連携して東北全体の魅力を底上げしてほしい。
- レジャーホテルも地域経済活性化の一端を担っており、海外 YouTuber に取り上げられたことで世界中から集客できた事例もある。今後も知識を共有し、地域を盛り上げていきたい。

菅原委員

- 作並温泉地域では、温泉、ニッカウヰスキー、定義如来などを結ぶ二次交通の拡充を目指している。
- GW明けから夏休み前は集客が鈍る。今年も仙台市の宿泊割キャンペーンに期待している。
- 外国人観光客がニッカウヰスキーを訪れるものの宿泊に結びついていないため、近隣での宿泊を推進できる施策をお願いしたい。
- 山間部であるため、宿泊税を活用して熊対策もしっかり行ってほしい。

高橋委員

- 宿泊税導入のトラブルは少ないものの、秋保温泉の宿泊客数は減少傾向にあり厳しい状況にある。
- 福岡市のように宿泊税の用途を透明化（ガラス張り）にし、納税者も事業者も納得できる事業を行ってほしい。
- インバウンドも重要だが、東北を知らない国内旅行者もまだ多いため、国内直行便を維持・拡大し、相互に送客を図るべきである。
- 外国人のスタッフの雇用には事務的な手間、給料面や仲介業者への金銭的な負担が大きい。補助金等が必要だと思う。
- 観光振興には、県と市（仙台市）が同じ方向を向き、協力して取り組むことが絶対に必要である。

半田委員

- 案内所の整備、多言語表示、トイレのバリアフリー化や綺麗化、Wi-Fi 整備など、目に見える形でのハード整備・環境整備を進めるといいかもしれない。
- 観光振興にあたっては、地域住民の理解を得ることや、防災・安全対策の強化も重要である。

- 駅からのコミュニティバスのアクセス（特に土日）の改善に向けて、自治体と協力して二次交通対策に力を入れてほしい。

林委員

- 宿泊税導入前の事前周知が功を奏し、導入後のトラブルは少なく順調に推移している。集めた税金が宿泊者増加に繋がれば、事業者から不満は出ないと考えている。
- 課題である平日や冬季の閑散期対策として、インバウンドの誘致（東北連携、国内外の直行便誘致、欧米豪からの誘致）が極めて重要であると考えます。
- DCに向けて、松島のトラック問題や熊対策などの環境改善、既存観光地の磨き上げ、ナイト・早朝コンテンツの充実など、多様な魅力のアピールが必要。

「2. 仙台圏域における観光施策」についての質問や意見等

磯田委員

- 各市町村によって対策が異なるため、県、仙台市、そして各市町村が密接に連携し、我々事業者も協力して取り組んでいく必要がある。

梅原委員

- 現在の観光情報を「見える状態」にして共有してほしい。現場のスタッフがお客様へ直接情報を発信することもできる。
- 宿泊税は、宿泊者から預かっている貴重な財源であるため、外部への丸投げなどで無駄に消費されることがないように、十分に配慮して進めてほしい。
- SNSやインフルエンサーの活用について、経営者がノウハウを十分に持っていない。これから県が宿泊税を活用してSNSに取り組む場合、実施している手法や成功事例、費用などの情報を共有して欲しい。また、インフルエンサーを紹介してもらえそうな相談窓口があると面白い。

大崎委員

- 事業の初年度として、具体的にどのように進めていくかが重要である。委員が頻繁に集まることは難しいため、事業の進行状況をメール等で定期的に共有してもらえると、施策のイメージが湧きやすくなる。

小松委員

- 宮城にはテーマパークのような巨大施設や京都のような世界遺産や神社仏閣が少ないため、既存資源の磨き上げには限界がある。期間限定の超有名絵画展示会の誘致や、地元出身の著名なマンガ作者と協力し、「現地に来なければ見られない・買えない」付加価値を作るべきである。
- 過去の有名グループの大型コンサートの教訓を活かし、連休などの繁忙期ではなく、平日や閑散期を狙って大物イベントを仕掛けることで、繁閑の差を埋める対策としてほしい。

尖戸委員

- 市町村の声に耳を傾け、この予算を使って地域資源のさらなる掘り起こしを行ってほしい。
- インフルエンサーの影響で特定のスポット（金蛇水神社等）の観光客が急増した事例もあるが、受け入れ体制が不足している場合がある。地元の人も気づいていない強みを再発見し、継続的に支援することで地域の強みにしてほしい。

菅原委員

- 情報発信にあたっては、仙台観光国際協会など既存の組織とうまくタイアップし、連携してコンテンツ作りを進めるべきである。
- 観光の魅力を伝えるガイドの育成は非常に重要である。仙台市が進めている「アクティビティツーリズム」のガイド育成や、「宮城オルレ」などの既存の取り組みと組み合わせ、ガイド育成しながらコンテンツを磨き上げる仕組みがあればいいと思う。

高橋委員

- 「食と酒」をテーマにしたツーリズムは、宮城県の強みを活かせる良い方向性である。
- 秋保（ワイナリー、ビール）と作並（ニッカウキスキー）を繋ぐ「アルコールツーリズム」を提案する。飲酒を伴うため二次交通（周遊バス等）の整備が不可欠である。
- 宿泊形態が「1泊2食」から「1泊朝食」へと多様化しており、夜間に営業する飲食店との連携も含め、昼の体験から夜の飲食・宿泊へと繋がるツーリズムを作るといいかもしれない。

半田委員

- 既存のコンテンツが豊富な地域がある一方で、沿岸部のように資源が点在し、それらを結びつけることが難しい地域もある。そういった地域でどのようなコンテンツを作り上げるかが今後の課題である。
- 観光客の安心感や楽しさを高めるため、まち歩きガイドなどの人材育成に力を入れるといいと思う。さらに地域住民が協力できる体制を整えるのもよい。

林委員

- 初年度は「選択と集中」を行い、松島エリアのように特定の地域を集中的に磨き上げる手法が有効であると思う。出来上がったコンテンツを旅行会社へ提案し、確実に商品化・販売される仕組みを作ってほしい。
- 県内の神社仏閣（金蛇水神社、秋保神社、定義如来、瑞巖寺、志波彦神社・塩竈神社、竹駒神社、大崎八幡宮など）を繋ぐような見せ方も面白い。
- 初年度の成果として、事業の内容や効果が目に見える形で実現されることを強く期待する。

高橋委員

- 今回、宿泊税を活用した様々な取組について説明いただいたが、あまり沢山のことをやりすぎると資料作りで仕事が終わってしまう可能性がある。最初は13市町村の中で、ポイントを定めて事業を行った方がうまくいくと思う。